

## PLES Report No. 13

### 英語教育について考える：どうして英語を学ぶのか

田中茂範（PEN 言語教育サービス代表・慶應義塾大学名誉教授）

#### 英語はできて当たり前

今回は、「なぜ英語を学ぶのか」ということについてお話していきたいと思います。中学3年生に「どうして英語を学ぶの？」と質問しました。結果、「入試に出るから」「英語で映画を観たり、歌を聞いたりしたいから」「学校の授業で英語が教科としてあるから」「親に言われてしかたなく」「今や英語は世界中で使われ、これからの時代を生きるのに必要だから」といった回答が返ってきました。教師に同じ質問をすれば、最後の「英語は国際語だから」が目立つ回答だろうと思います。

確かに英語を実用的なレベルで使うことができる人は15億人ほどであるという推計があります。その内、母語として英語を話す人は4億人弱です。圧倒的多数の人が第二言語として英語を使っているということです。アジアでも、韓国では英語ができなければ生きていけないということから国策として英語教育が重視され、中国でも英語が使える人口が急速に増えています。同じことが東南アジア諸国についてもいえます。

「英語は出来て当たり前」という状況が現実のものになってきているのは間違いないと思います。世界中の人が英語を使うということを英語は多文化共生の手段であるということです。同じ中学3年生に「英語は得意ですか」と聞きました。すると、6割が「苦手」あるいは「やや苦手」と回答しました。英語はできて当たり前という状況にあって、過半数の中学生が英語は苦手と考えているというのは教育的には深刻です。しかし、同時に「英語ができたらどう？」と問うと、9割が「うれしい」あるいは「ふつう（悪くない）」と応えました。英語が苦手でも「英語はできないよりできたほうがいい」と感じている生徒が多いということです。英語教育はこれにちゃんと答えなければならないと思います。

#### バイリンガルであることのメリット

英語は出来て当たり前という言い方を繰り返しています。英語ができるようになるということは「バイリンガル」になるということです。そして、このことに関連して注目したいことがあります。世界ではバイリンガルであること、マルチリンガルであることが自然であるということです。日本の場合のようなモノリンガルはむしろ少数派です。

バイリンガルになることのメリットとしてあの有名な The New York Times [2012 3/17]

が *Why Bilinguals Input-Riche Smarter: The benefits of bilingualism* と題した記事を書いています。例えば英語が話せると色々な人々と遣り取りができるというだけでなく、二言語を併用して使えるということは、認知能力を高める効果があるという内容です。バイリンガルのほうが問題解決力、企画力、創造力、記憶力、意思決定力において優れており、その結果として、バイリンガルのほうが学業の成績が高く、しかも、職業選択の可能性が高い（よりよい仕事に就き、より多い年俸を得る）ということが多くの研究から明らかになってきています。そのことを踏まえて、上記の新聞は大胆な見出しを立てて、バイリンガルであることの利点を報じたのです。

### 自分で納得するのが一番

だとすると、英語を学ぶということは、国際語であるということ以上に、個人的な資質を高める上でも意味があるということになります。しかし、こういう話をしても生徒の英語に向かう態度が激変するわけではありません。生徒一人一人が「英語を身につけることの意義」を見出すことができたとき、それは学習に向けての大きな力になるのだと思います。僕の大学のゼミの学生に、英語は勉強しても意味がないとずっと思ってきた学生がいました。ある日、彼は、いきなり英語の勉強を懸命に始めました。何がきっかけで変わったのかと聞いたところ、次のように、その訳を説明してくれました。

「僕は英語なんか必要ないとずっと考えてきた。別に海外で仕事をするわけじゃないし、日本で豊かな生活を送ることができる。英語なんていらないとずっと思ってきた。しかし、急に考えが変わった。仕事は一人でやるよりみんなでやるほうが面白い。いろんな人がいるほうが面白い考えがでてくる。だったら、日本人同士でやるより、インド人やフィンランド人やコンゴ人が一緒のほうがおもしろいに決まっている。すると、英語は必須の共通言語になる。だから、英語を勉強することにした」

どうして英語を学ぶのか。この問いに、個人が自ら答えを引き出したとき、それは強い動機づけに変わるということを思い知らされました。大上段に構えて、英語は必要だと訴えても、生徒の心にはなかなか届かないということを。今回は、「英語はだれでも身につけることができるのか」というテーマを取り上げます。